

平成 23 年度地区懇談会(登別地区)議事録(概要)

平成 23 年 10 月 24 日(月)婦人センター 出席者数 27 人

事前質問:消防署登別支署設置のサイレン吹鳴について【担当:消防本部総務G】

回答:消防次長

- ・正午に鳴らしていたサイレンは、サイレンの作動状況を確認する目的で実施していたが、このサイレンは、お昼を知らせる合図として多くの皆さんに受け入れられた半面、夜勤明けの方や病人・乳幼児のいる家庭から騒音被害による苦情や不満の声も多くあったのも事実。
- ・消防本部で内部協議を行った結果、動力サイレンが故障で吹鳴できない場合は、自動的に電子サイレンに切り替わり吹鳴できること。以前と違い、時計や携帯電話などで時間を確認できることなどを踏まえ、平成 21 年からサイレン吹鳴を中止した。
- ・何より地域の皆さんのコンセンサスが大事。市連合町内会事務局を通して協議の場を設け、理解・協力が得られるのであれば、再度のサイレン吹鳴を検討したいと考えている。

意見:

- ・市連合町内会を通じて、これから協議と考えて良いか。
- ・サイレン吹鳴訓練の結果はいつ公表するか。サイレン吹鳴のテストは毎年やった方が良い。

回答:総務部長

- ・8月20日の訓練でサイレンが鳴らなかった3か所は、10月20日の総合防災訓練に合わせて訓練を行った。今月中にはまとまると思う。
- ・震災対応市民連絡会議に報告し、市連合町内会を通じて各町内会に報告する。

意見:

- ・各町内会長とも鳴らしてほしいという思いがある。署名を集めても良い。東日本大震災でサイレンが鳴らないことへの不安がある。

事前質問:登別市婦人センターのエレベーター設備の設置について【担当:商工労政G】

回答:観光経済部長

- ・婦人センターは昭和52年に建設された働く婦人のための施設であるが、それ以上に地域のコミュニティ施設や、図書館機能・災害時避難場所機能としても使われている施設。
- ・今年度中に耐震診断の結果が出るので、それを受けて補強工事の設計を行うが、その際にエレベーター設置工事費用や設置可能な状態かどうかを検討する。
- ・2階建ての鷺別公民館のエレベーター設置費用は、5,428万5千円。3階建ての婦人センターだと、かなり大きな額になることが見込まれる。
- ・多額の費用の投下に見合うだけ、長く利用することを考えていかなければならない。

意見:

- ・耐震化の問題はあるが、鷺別公民館より婦人センターの利用者の方が多いと聞く。設置の検討を。
- ・耐震診断の結果はどうか。登別支所や登別支署も含めてトータルで考えないといけない。婦人センターのトイレは中2階にあり、車いすの方は使えない。
- ・JR登別駅は観光の入口。客を迎える心が大事。大きな荷物を持つ人が階段を上がるのは大変。優先順位とは別に考えるべき。
- ・婦人センターの耐震工事にいくら必要か、我々は分からない。
- ・耐震工事とエレベーター工事の両方では費用が掛かるし、エレベーターを設置した後に施設を新しくとも言いにくい。話し合いに市職員も入ってほしい。

回答:市長

- ・「地域とともに描くまちづくり」を11月までに地域で話し合った後、12月以降に地域と市で話し合うこ

とを前提で協議を進めたい。

- ・優先順位は地域と決める。地域と市が別々に考える訳ではない。

事前質問: JR登別駅前周辺の活用に関する考え方について

回答：市長

- ・登別温泉地区との懇談会で、駅のエレベーターだけではなく、足湯や駅の位置、駅前広場など、登別地区の皆さんと協議会で話し合わないかとの話があった。それがあれば、市は国やJRにも要望できる。
- ・登別温泉地区からは、エレベーターの実現は10年後でも良いが、その間、客に満足してもらうために何をすべきか話し合うことが必要との話があった。協議会か意見交換かは分からないが。

意見：

- ・登別温泉地区の人たちは、温泉のことは自分たちに任せろと言う。登別温泉地区とは話をしたくない。
- ・自分はまず足湯が必要と考える。できることで少しずつ客が増えるかも知れない。人生は賭け。計算できるものではない。

回答：市長

- ・個人的には足湯をやりたい。登別温泉地区の方は、登別温泉に客が来なくなるというかも知れないが。設置後のメンテナンスは誰がやるかなど役割分担も考えたい。
- ・登別温泉地区とは約束したので、敵対心を持つよりは、共通の場の設定に協力してほしい。登別地区だけの会議の場も設定する。足湯は手法の話。手法から話を進めたくない。

事前質問: 旧北大登別分院跡地が民間業者により取得されたが、その後の状況または計画の情報等について【担当:企画G】

回答：政策推進室長

- ・昨年2月に北大から事前連絡があり、北大分院跡地を売却することとしたこと、今後は市に購入する意向があるかを打診し、購入の意向がない場合は入札を行うとのことであった。
- ・市は検討を行い、その結果、北大分院跡地は開発にあたり規制の強い市街化調整区域の土地であり、民間による乱開発の可能性が極めて低いこと、建物の解体・撤去に多額の費用が必要と推測されることを勘案して、その時点では購入しないことを決定した。
- ・昨年8月、北大から正式に文書で取得の照会があり、市は取得する意思はないことを回答した。
- ・今年2月、北大から入札を行うとの連絡があり、入札終了後には、洞爺湖町の株式会社幸清会が落札し土地を購入したこと、今後どのように活用するのかが不明であるとの連絡があった。
- ・市は、土地購入者が跡地をどう利用するかは分からない。

意見：

- ・婦人センターの裏に公社の土地があるが。

回答：政策推進室長

- ・市街化区域で、乱開発防止のために公社が購入した。さまざまなアイデアがでるが結論がでない状態。
- ・市が使うときは公社から買うが、用途は決まっていない。

情報提供: 地域とともに描くまちづくり

説明：市長

- ・地域の人たちと地域の課題の優先順位を考えたい。例えば地域の、観光、婦人センター、公民館、学校、老人憩の家も対象と考える
- ・ペーパーの内容について、11月末までに地区連だけで話し合っ追加・削除してほしい。
- ・各地区間の話として、例えば驚別優先で他の地区は順位が落ちるかも知れない。市役所が勝手に決める

ことなく地区との話し合いの中で決めていきたい。

地区連合町内会：発言なし

その他:登別東青少年会館閉鎖後の動きについて〔担当:社会教育G〕

意見：

- ・登別東青少年会館が閉鎖し、更地になった。緊急避難的対応との説明であったが、その後の動きは。

回答：教育部次長

- ・電線から火花が散ったり、壁が落ちたりするなどしたため、一度休止した。利用者は登別公民館と婦人センターに振り替えた。
- ・建て替える予算もなく、最終的には解体した。皆さんがちゃんと使える状態にするには、公民館や婦人センターとトータルで考えないといけない。